

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2970600579
法人名	有限会社 友愛
事業所名	グループホーム 友遊
所在地	奈良県桜井市山田716 - 1 (電 話) 0744 - 44 - 1551

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302 - 1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(21年 4月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 27日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 12人, 非常勤 9人, 常勤換算 14.7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(4月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会中和病院、小阪医院、山本歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜井市の西に位置し、明日香村に隣接した緑豊かな森を南に、畝傍山に沈む夕日を眺め、山田地区明日香村の民家と身近に接する小高い丘に、ホームがあります。地区の人たちの温かい眼差しを受け、代表者の熱意とその思いを共有するスタッフとの支えあいの中で、入居者は、それぞれの個性を発揮しながら、元気に生活されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を定期的開催し、地域密着型サービスへの理解、地域との関係作りなどを議題に話し合いをされています。また、車椅子のベルト使用については、入居者の状況に合わせ、改善に向けて検討されていますので、その実現が期待されます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については十分に認識され、積極的に活用したいと考え、職員会議の議題にあげ、多くのスタッフが参加して取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、外部評価の報告と共に、災害時の対応や運営に関する質問を受けたり、意見が交わされて、サービスの向上に活かされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会を開催し、意見交換する機会をつくり、出された意見・要望等は運営に反映させるよう努められています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは「ふれあいサロン」などの地区の行事に参加する等、地区の一員として認められています。また、秋祭りには子ども神輿がホームまで来てくれたり、ボランティアの訪問や近所の方から野菜作りを教わる他、花や野菜も届けてもらうなど、地域との交流があります。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、地域の一員として地域社会や自然社会と親しみ、安心した生活を送ることを理念とされています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者とスタッフは、理念について、会議の他、日常的に話し合う機会を持ち、理念の共有に取り組まれています。日々のサービスの提供場面において、理念を具体化するよう努力されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは「ふれあいサロン」などの地区の行事に参加する等、地区の一員として認められています。また、秋祭りには子ども神輿がホームまで来てくれたり、ボランティアの訪問や近所の方から野菜作りを教わる他、花や野菜も届けてもらうなど、地域との交流があります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については十分に認識され、積極的に活用したいと考え、職員会議の議題にあげ、多くのスタッフが参加して取り組まれています。外部評価の結果を踏まえ、具体的に改善に向けて取り組まれています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族、区長、民生委員、長寿会、人権擁護委員などの参加があり、外部評価の報告と共に、災害時の対応や運営に関する質問を受けたり、意見が交わされて、サービスの向上に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の受け入れについて、市の担当者と連携されています。また、人権擁護委員会の見学を受け入れるなど、市との関係作りに努力されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状況は、家族の面会時や電話で報告されています。広報紙を発行したり、年2回「家族会」を開催するなど、入居者の生活ぶりを知らせる仕組みがあります。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会を開催し、意見交換する機会をつくり、出された意見・要望等は運営に反映させるよう努められています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフは常勤者を多くし、定着できる体制をつくり、馴染みのスタッフによる支援が受けられるよう努められています。また、新しいスタッフが入る場合は、入居者の状態を早く把握できるよう、情報共有のための資料を作成する等、入居者へのダメージを防ぐ配慮をされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任スタッフには、管理者が理念を始めケアについて指導されています。また、外部研修の情報提供と共に、指定研修の参加、職員会議を利用した伝達研修、ホーム内研修等、段階に応じて、継続して研修に取り組まれています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス連絡会に2ヶ月に1回参加されています。また、県の認知症研修の機会に他ホームの職員と交流したり、個別に見学するなどして、サービス質の向上に努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者との馴染みの関係づくりのため、スタッフが家庭訪問したり、ホームへ日帰りの見学利用を重ねながら、本人と家族が納得し、安心して入居できるよう努められています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として、スタッフが昔のしきたりや物事の考え方、花や野菜の名前などを教えてもらう他、入居者とスタッフが作業を一緒に行う場面を作り、共に喜び支えあう関係づくりに留意されています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴などの情報を事前に把握するとともに、日々の関わりの中で、言葉や会話からも把握に努められています。把握が困難な場合は、情報をもとに、スタッフ間で意見交換し、話し合って検討されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向の把握に努め、ケア会議でのスタッフからの情報や医師の意見を検討し、それらを反映した介護計画を作成されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的な見直しの他、状態が変化した際には、家族、医師など関係者の意見を求めて、状況に応じた計画の見直しをされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院、個別の外出等、入居者の状況に応じて柔軟に支援されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との話し合いにより、月1回ホームの協力医による往診があり、電話による相談や点滴往診などの支援体制があります。また、入居以前からのかかりつけ医や他医療機関への受診は、原則として家族が対応することになっていますが、不可能な時にはスタッフが同行するなど、本人や家族の意向を尊重した支援をされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、家族の意見を聞く機会をもち、職員会議でも話し合われていますが、対応方針の共有までには至っていません。	○	今後、入居者や家族が安心してサービスを利用できるよう、重度化した場合の対応や終末期の支援について、関係者全体で方針の統一が図られることを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊重について、よく理解されており、個々の入居者に応じたアプローチや話しかけ、言葉遣い、声のトーンなど適切に対応されています。また、記録などの個人情報も保管庫に管理されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、個々の入居者の体調や気持ちに沿ったペースで過ごされることを大切にされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に畑で収穫した野菜や近所の農家からもらった野菜を使って一緒に調理し、スタッフと入居者が同じものを食べながら楽しく食事できるよう支援されています。また、個々の入居者の能力に応じて配膳や片付けに参加されています。</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は各ユニットで曜日が重ならないよう、週3回実施されていますが、入居者の習慣や希望に沿い、気分や体調に合わせて、曜日を変えたり、シャワーを使うなど柔軟に対応されています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯物干しとたたみ、拭き掃除、掃除機がけなど、個々の経験や力を発揮する場面づくりをされています。また、隣接する空き地に出かけ土筆摘みや、弁当を持参するなどの支援をされています。</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>テラスでの日向ぼっこやおしゃべり、広場での体操や外気浴、畑の作業、散歩や買い物など、戸外へ出かけられるよう支援されています。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援						
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は、施錠されておらず、開放的な雰囲気のアプローチと構造になっています。スタッフの目配り、見守りのもとに、安全面に配慮して入居者の自由な暮らしを支援されています。</p>		
	27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>建物は震度7対応の構造で、年2回の防災訓練と消防署へ直通の電話の設置、緊急時の連絡網の徹底をされています。災害時における地区の協力も得られており、非常食と水、毛布などの災害備蓄も整えられています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の指導を受けて栄養バランスに配慮されています。摂取量が記録されて、水分も適切な量の確保ができるよう支援されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を体感できる風や森の緑、小鳥のさえずりが、ホームの中に届いています。リビングは開放的で、ウッドデッキやトイレ、浴室などの共用空間も、使いやすく安全な構造と配置になっており、居心地よく、自分なりの活動がしやすくなるよう配慮されています。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は、使い慣れたタンスやテレビ、飾りものなどを持ち込み、それぞれ居心地よく過ごせるよう工夫されています。		